

川越市立初雁中学校 三年 鈴木 永愛

私は朝起きると、コップ一杯の水を飲む。ありふれた日常の一部だと思っていたが、この行動は、決して当たり前ではないことを知った。

世界には、人口の半数以上が水道を使えるようになったが、今だ、六億六千三百万人もの人々が、安心して飲める水が身近にならないようだ。池や川、湖、整備されていない井戸などから水をくんでいて、その半数近くが、アフリカ諸国に集中しているようだ。多くの途上国では、水くみは子どもたちの仕事になっていて、アフリカ諸国だけでも、三百三十万人の子どもたちが、重い水をかかえて、毎日遠い道のりを歩き続けている。疲れ果てた子どもたちには、学校に通う時間も体力も残されていない。そして、やつとの思いで手に入れた水は不衛生で浄化されておらず、この水が原因で、毎日、八百人も子どもが、命を落としている。どんなに汚くても、この水を飲むしかないのが現実だ。また、干ばつや地下水の枯渇といった水不足は、人体だけでなく農作物や家畜にも壊滅的な被害を与える。そこから飢餓問題に発展する恐れもあり、国際河川の流域国間では水の使用量を巡る争いが絶えない。今の世界には、水の衛生やアクセス、水資源の保全と効率化、国際協会など改善すべき問題が山積している。

この問題に、世界一といわれている日本の水処理技術が既に多くの国で導入されている。地球上の水の九十七パーセントを占める海水をろ過し、飲用水や生活水として利用できる淡水に変える技術を海水淡水化技術というそうだ。アメリカや中東、アフリカなど慢性的な水不足で苦しむ地域を中心に導入され、一日当たり六千万トンの真水の生産に成功している。また、日本では下水の再利用率は二パーセントに留まっているが、水資源が少ない中東地域では実に八十パーセントが再利用されている。この下水処理に最

適だと考えられているのが、日本が開発したシステムで、これも多くの途上国で導入が進んでいる。

今回、水について調べていく中で、自分の知らなかった現実を突きつけられた。今、この瞬間にも汚染された水で多くの子供たちが亡くなっている。とても、胸が張り裂けそうになった。もし、私が日本で産まれていなかったら、今頃どうなっていたのだろうか。当たり前に使っていた水が今では、とても貴重なものだと気づかされた。そして、改めて日本の水処理技術の凄さも知ることができた。

中学生の私に出来ることは、ちっぽけかもしれないが、まずは、毎日の洗顔や歯磨き、入浴など、水の無駄遣いをしない。そして、世界に目を向けて正しい知識や情報を知り、それを周りの家族や友達に伝える。また、インフラや設備を整える為に募金や寄付をして支援していきたいと強く思った。世界中の人々に安心して安全な水がいきわたるように、願ひ、今日も私はコップ一杯の水を大切に飲む。